

2	一宮	一宮市立尾西第一中学校	アンドウ イチエ
			名前 安藤 一会

分科会番号	8
-------	---

分科会名	音楽教育
------	------

研究題目

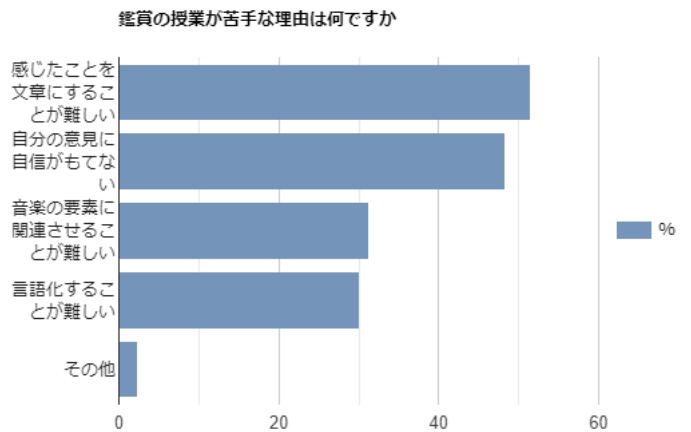
「音楽のよさを感じ、かかわり合いながら、学びの意味や価値に気づく生徒の育成」
 ～主体的、協働的にかかわることで、自信をもって発表できる鑑賞の授業づくり～

1 主題設定の理由

本校の生徒に音楽の授業についてアンケートを実施したところ、8割以上の生徒が音楽の授業が「好き」と回答した。しかし、鑑賞の授業は好きですかという質問では、5割の生徒が「苦手」と回答した。その理由として、「感じたことを文章にすることが難しい」、「自分の意見に自信がもてない」や「音楽の要素に関連させて書くことが難しい」などが挙げられた。以上のことから楽曲を鑑賞する上で、音楽を形づくっている要素の理解や、それらを表現することに課題があることがわかった。【資料1】

歌唱の授業時には、とても明るく、前向きに取り組む生徒が多い。また、話し合いの場面では、積極的に級友と意見を出し合うことができる。歌唱時の話し合いに比べ、鑑賞の授業では意見が出にくくなることが多い。そこで、鑑賞領域においても主体的・協働的に取り組むことができる授業を目指し、本主題を設定した。

【資料1】生徒アンケート



2 目指す生徒像

鑑賞の授業において、主体的、協働的に取り組むことで、自信をもって発表できる生徒

3 研究の方法

(1) 研究の仮説

【仮説1】

鑑賞の授業において、鑑賞の仕方を工夫することで、視点をもって主体的に聴き、楽曲について自分の考えをもつことができるであろう。

【仮説2】

対話を中心とした授業展開を工夫することで、楽曲について対話を重ね理解を深めることができるであろう。

(2) 仮説を検証するための研究の手立て

【手立て①】

Chromebook を活用し、少人数のグループで繰り返し音源を聴くことができる時間を設定する。

【手立て②】

Chromebook の活用やワークシートの工夫をし、音楽を形づくっている要素を視点として話し合うことができるようにする。

4 研究の構造図

【研究主題】

「音楽のよさを感じ、かかわり合いながら、学びの意味や価値に気づく生徒の育成」

【目指す生徒像】

・鑑賞の授業において、主体的、協働的に取り組むことで、自信をもって発表できる生徒

【仮説①】

鑑賞の授業において、鑑賞の仕方を工夫することで、視点をもって主体的に聴き、楽曲について自分の考えをもつことができるであろう。

【仮説②】

対話を中心とした授業展開を工夫することで、楽曲について対話を重ね理解を深めることができるであろう。

【手立て①】

全体で音楽を聴くだけでなく、Chromebook を活用し、少人数のグループで繰り返し音源を聴くことができる時間を設定する。

【手立て②】

音楽を形づくっている要素を視点として話し合うことができるようワークシートや Chromebook を活用する。

【生徒の実態】

8割以上の生徒は音楽の授業が好きであるが、鑑賞の授業は苦手意識を持っている。
自分が感じたことを文章にすることが難しい。
音楽の要素に関連付けて書くことが難しい。
自分の意見に自信をもつことができない。

5 研究の実践

【手立て①】

全体で音楽を聴いた後にグループで話し合いをする際、Chromebook を活用し、自ら聴きたい部分を選び、繰り返し何度も聴けるようにすることで、その部分について時間をかけて考えることができたり、他者から出た意見を確かめるために聴いたりすることができるようにした。

普段の鑑賞の授業では、全員で一斉に曲を聴くことがほとんどである。しかし、生徒によっては「もう一度聴きたい」や、「この部分だけ聴きたい」など、生徒によって聴きたい場所や要望は異なっていることが分かった。そのため、Chromebook を各グループに1台ずつ準備をして、自ら聴きたい部分を選んで曲を聴けるようにした。【資料2】

【資料2】【実際の画面】



今回の授業では、ベートーヴェン作曲『交響曲第5番 ハ短調 作品67』を題材とした。音源は、教科書に掲載されている動機の部分を主に抜粋したものを準備した。はじめに、全体で動機の聞き取りを行い、全員で動機のリズムを叩いた。その後、グループごとに第1楽章と第2～4楽章までの動機の変化とそれにもなう曲想の違いについて何度も繰り返し聞きながら意見を出す活動をした。グループ内で出た意見をもとにその音源を何度も再生しながら意欲的に話し合い活動を行っていた。「この意見に気づくことができなかつたからもう一回聴きたい」や、「動機を演奏している楽器が違う気がする」など、グループで話し合い、意見が出るたびにそこを繰り返し再生して確認する姿が見られた。音源を繰り返し再生できることによって、より主体的・協働的に活動することができたと感じた。

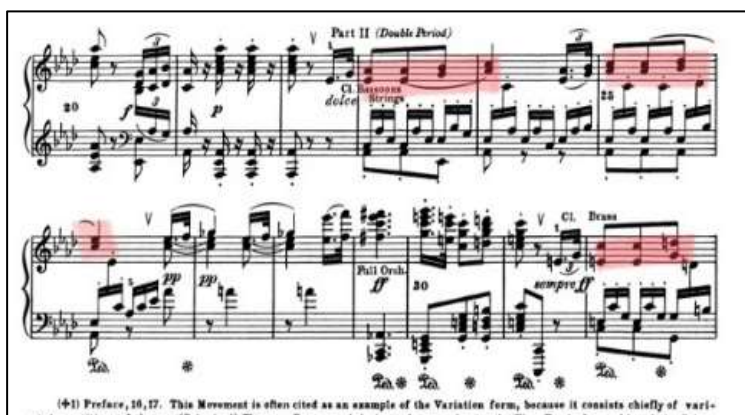
生徒のワークシートに、それぞれの楽章の動機を聴いて感じたことや特徴を書くことができる生徒が増えた。

【手立て②】

鑑賞の授業において、音楽を形づくっている要素に基づいた話し合いができることをねらいとしてワークシートを工夫したり、Chromebook を活用したりした。【資料3】

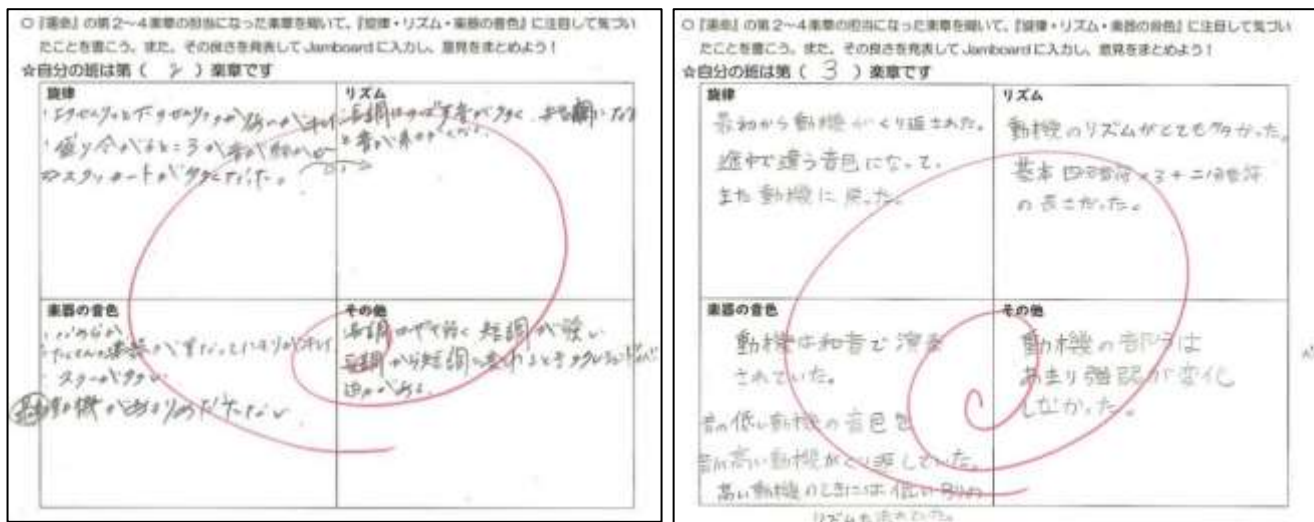
ベートーヴェン作曲『交響曲第5番 ハ短調 作品67』を題材とし、第1楽章に何度も現れた動機が、第2～4楽章ではどのように現れるか第1楽章と比較する活動をした。

【資料3】【生徒に配付した楽譜(第2楽章)一部抜粋】



はじめに全員で聴き取りを行った後に4～6人のグループを作り、動機の聴き取りを行った。その後、第1楽章の動機と比較し、音楽を形づくっている要素の中の旋律・リズム・楽器の音色・その他の4つについて分析をした。まずは自分の意見をワークシートに書き込み、その内容についてグループで話し合いを行った。【資料4】

【資料4】【生徒が記入したワークシート】



その後グループで共有した意見を Jamboard に記入させた。その際、旋律は黄色、リズムは黄緑色、楽器の音色は水色、それ以外に気付いたことを桃色にし、分類して入力をする活動を行った。自分の感じたことを何かに例えて伝えてみたり、オノマトペを使って表現したりして、他者に意見を伝えることができていた。しかし、中には言語化することが苦手な生徒もいるため、グループ内で言葉を補いながら入力することも指導した。自分が感じたこと、気付いたことはあるが伝えることができない生徒に対しては、周りの生徒はよく聞いて、「なんとなく言いたいことはわかるよ。」や「さっき出た意見と似ているけどちょっと違うかな？」などお互いに声を掛け合い、温かい雰囲気でもとめることができていた。

また、グループ内で発表している時に、意見は同じだが要素が異なることから熱心に話し合いを行っているグループがあった。お互いに「自分はこう思ったからこの要素に分類した」と自分の思いを伝えたり、同じグループの生徒からも意見を求めたりしながら Jamboard に入力をしていった。自分の思いを伝えるだけではなく、根拠を示しながら話し合いを進めることができていた。

他者の意見にも耳を傾けながら自分の意見にも向き合い、試行錯誤しながら意見をまとめることができていたグループもあった。

各グループから意見が出た後に、同じ楽章を聴いたグループ同士で意見の共有を行った。同じ意見が出ているグループもあれば、異なる意見、新しい意見が出ているグループもあり、それぞれ新しい意見が出るたびに生徒が自主的にプリントに記入する姿も見られた。

【意見交換をしながら Jamboard に入力する生徒】



その後は学級全体で、他の楽章の意見の共有を行った。スクリーンに映しながら第2楽章から第4楽章まで各グループの代表に発表をさせた。【資料5】

「第1楽章と比べて第2楽章は落ち着きのある感じがした。」や、「第1楽章の動機を演奏していたのは弦楽器が多かったけど、第3楽章は金管楽器が主に演奏している感じがした。」「第4楽章はとにかくたくさんの楽器の音が重なっていて豪華な感じがした。テーマパークのような明るさがあった。」などと、具体的になぜそのような感じがしたかの理由をつけて説明することができるようになっていた。また、第1時にベートーヴェンの生涯について学習した際に、ハイリゲンシュタットの遺書を紹介した。グループで話し合いをする中で、その遺書についての意見も出たグループがあり、「第3楽章は突然音が大きくなったり、小さくなったり、悲しい感じもすることは、作曲者の気持ちが不安定だということが表されているのではないか」や、「第4楽章の動機は、音が上がっていく形だから前を向いて頑張っていこうとしているように感じた」などプリントに意見を書いている生徒もいた。

グループによっては、意見を出すことに精一杯になってしまったところもあったが、同じ楽章を聴いたグループや学級内での意見共有ができたことによって、新たな気づきになる生徒が多数いたことが分かった。

【資料5】他の楽章の意見共有

【Jamboardの画面（第2楽章）】



【Jamboardの画面（第3楽章）】



【Jamboardの画面（第4楽章）】



6 研究の成果

(1) 仮説1の成果

音源を自由に再生できる環境にしたことで、何度も繰り返し聴いて考え、主体的に学習活動を行うことができた。Chromebookを使用したことで、一斉に聴くだけの授業では気付くことができないであろう意見まで出たグループもあった。他者が出した意見を聞いて、「そうなんだ」と終わるだけでなく、もう一度音源を再生して全員で確認するなど、主体的・協働的に取り組む生徒が増えた。また、自分の出した意見についてグループの生徒と話し合いを重ねることで、肯定されたり他の考えについて知ったりすることができたため、考えの多様性に気づき自信をもつことができたと言えた生徒がいた。

(2) 仮説2の成果

ただ感じたことを羅列するだけではなく、音楽を形づくっている要素のどれに当てはまる意見なのかを考えるワークシートにしたことで、音楽の聴きどころをあらかじめ提示することができ、いつもより意見を多く出すことができた。1学期の鑑賞では、「明るい感じがする」とただ感じたことを書くだけの生徒が大半で会ったが、「明るい」と感じる理由は、曲が長調であることや楽器の音色が高いことなど様々な要素が重なっていることに改めて気づくことができる機会だったのではないかと考えた。また、要素ごとに色分けしておくことで意見を共有するときにとても分かりやすいものができた。自分が分析していない楽章についても理解を深めることができたため、「他の楽章を聴いてみたい」という主体的な姿をみとることができた。

7 今後の課題

今回の授業を経て、グループワークを増やしたことで生徒が主体的に活動することができたように感じた。しかし、全員がその話し合いに参加することができたわけではなかった。意見を発表することはできるが、その意見から考えを深めていくところで発言ができず、他の生徒の発言をワークシートに記入することしかできなくなっている生徒もいた。鑑賞の授業に限らず、歌唱の授業でも一部の生徒のみが発言し、なかなか言い出せない、もしくは意見を考えることができない生徒はいる。そういう生徒でも参加しやすい環境や雰囲気づくりをより一層考えていかなければならないと強く感じた。

グループワークでJamboardを使用したがる、生徒自身のタイピングが遅く、思ったより時間がかかってしまい、話し合いの時間が予定より少し減ってしまった。模造紙に付箋で意見を貼る方法も検討したが、Jamboardを使うことで全体の共有や入力してある意見を拡大して見ることができると、便利な面もある。タブレット端末を使うと時間がかかってしまうため、敬遠してしまうが、鑑賞の授業に限らず歌唱の授業時にも活用する方法を検討し、普段から使って慣れていくことも大切だと実感した。

今回の実践を通して学んだことをこれからの授業に生かしていけるように日々精進したいと強く思った。